



廃食油の活用状況を見学するエコツアー

(特非) 環境パートナーシップいわて

廃食油の資源化活動を通じて、 三陸の復興及び豊かで持続可能性のある 地域社会をめざすプロジェクト

復興支援助成

3年目

実践

気仙地区でのBDF復興に
向けた活動(エコクッキング、
科学講座など)

220人

廃食油が地域資源で
あることを周知する活動
(BDFフォーラムなど)

300人

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

震災時BDF(バイオディーゼル燃料)は被災地支援に大きな役割を發揮したが、三陸地区では精製する施設が津波で被災し、活動は中断した。本活動は三陸での廃食油の資源化による復興を目指す。

目標

- 廃食油回収の活動が地域に定着し、お互いが顔を合わせて声を掛け合う光景が当たり前のものとなる。
- 廃食油が地域の資源として牛乳パックや発泡トレーの資源化回収と同等に資源として認知されている。

活動内容

気仙地区でのBDF製造拠点の再開へ向け、実態調査を実施。地域住民向けのエコツアー「使用済みてんぷら油が車や農業で使われるまで」(3回)、「ていたんそエコクッキング」(8回)、子ども向け講座「科学で楽しもう」(3回)を開催。廃食油が地域資源であることを周知するため、BDFタスク会議を隔月開催。BDFフォーラムや、けせん環境フォーラムも開催した。



事業者、研究者等と連携し
タスク会議を開催

達成できなかったこと

大船渡市役所が家庭から集めた廃食油の遠野市の福祉施設への引き渡しを中断した。市民への周知を行うことを提案するも、市内での燃料精製拠点の確保が急務となった。

今後の展望

市役所との連携を強化しながら、連携組織の確立により、活動の持続的な展開を目指したい。

成果と工夫した ポイント



成果

気仙地区では、住民からの気運も徐々に高まり、大船渡市の家庭から廃食油の試験回収が始まっている。農業でのBDF使用量は、1カ所ですべて11,000L超となり、廃食油発電も9,000KWhの実績となった。

工夫

地域の公民館のほか、仮設住宅団地の集会所などのべ8箇所で開催し、140人の参加を得ることができた。